

令和6年
2024年

11月22日
金曜日

第11601号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料 (前納)
年間 82,080円
(税込み)
6カ月 42,120円
(税込み)

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1
TEL03-3663-2011 FAX03-3663-2015

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



開会に先立ち、あいさつする江藤拓農林水産大臣……P2

注目のヘッドライン

農林部会等合同会議、令和6年度補正予算案、7年度税制改正要望案を議論

自民党の総合農林政策調査会・農林部会合同会議が開催され、令和6年度補正予算主要事項案などが議論された。

…詳細はP2

鳥フル防疫対策緊急全国会議開催 関係者と危機感共有—農水省

…詳細はP3

- ▶ 農林部会等合同会議、令和6年度補正予算案、7年度税制改正要望案を議論—自民党……P2
- ▶ 鳥フル防疫対策緊急全国会議開催関係者と危機感共有—農水省……P3
- ▶ 日飼工が「配合飼料価格安定制度のあり方検討会」踏まえ説明会を実施……P4
- ▶ SRSホールディングス25年度中間決算、増収増益を達成、M&Aも積極的推進……P4
- ▶ 牛・豚肉の輸入予測数量、12月牛肉は2・5%増、豚肉は15・6%増か……P5
- ▶ 和牛マスターセンターで姫路共進会開催、名誉賞はうしの中山出品牛……P5
- ▶ [鶏肉輸入数量予測] 12月は計5万2580tで3・1%増……P6
- ▶ 日本養豚大学校の初級コース第9期がスタート、開講式実施……P6
- ▶ 東京市場が牛内臓価格3円引き上げ、12月2日販売分から……P7
- ▶ フレッシュネスバーガー、5代目「神戸牛バーガー」を発売……P7
- ▶ [輸入牛現物相場]……P8
- ▶ [ブロイラー市中現物相場]……P8
- ▶ [資料]日本食肉流通センター週間市況……P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]21日……P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]21日……P11

りんご和牛
信州牛
登録商標 第1394040号

信州プレミアム牛肉
登録商標 第5282895号 第5282894号

信州牛生産販売協議会

国産牛豚内臓肉、チルドビーフ、チルドポーク卸売

健康と食生活を演出する
ビセラル株式会社

〒123-0864 東京都足立区鹿浜 1-10-20
営業1課 / ☎(03)3899-2374(代) FAX(03)3857-2706
総務 / ☎(03)3853-4411(代) FAX(03)3899-4119

<http://www.visceral.co.jp>

農林部会等合同会議 令和6年度補正予算案、7年度税制改正要望案を議論—自民党

自民党の総合農林政策調査会・農林部会合同会議が21日、党内で開催され、令和6年度補正予算主要事項案などについて議論が行われた。

冒頭、宮下一郎会長は「食料・農業・農村基本法の改正を受けて、これから基本計画を進める大事な時期を迎える。われわれも農林水産政策の推進に政府と一体となって、しっかり前に進めていくように努力していく」と述べた。

その後、江藤拓農林水産大臣が「3年余り、調査会長を務めさせていただいたが、皆さんとは自民党らしい議論が展開できたと思っている。非常に難しい国会であることは承知しているが、国の農政の主戦場がこの調査会・部会である。自民党は全国の農林水産事業者の期待を背負うに値する党であると信じている。今国会は農林水産委員に野党議員も多く、熟議の国会にしなくてはならないが、われわれが信じてきた道がある。妥協ありきの議論にせず、しっかり野党の意見もききながら、意見の衝突の先に良い答え、新しい民主主義の形が生まれることを期待している。そのために党内で熟議し、意見を吸い上げて取りまとめ、それを受け止め、行政と一体となって政治を進めていく」とあいさつ。

続いて、笹川博義、滝波宏文の両農林水産副大臣、山本佐知子農林水産大臣政務官があいさつを述べた。

令和6年度補正予算重点事項案では、農村基本法の改正の着実な実施に向け、①新基本法計画推進集中対策②物価高騰等の影響緩和対策③「総合的なTPP等関連政策大綱」に基づく施策の実施④持続可能な成長に向けた農林水産施策の推進⑤防災・減災、国土強^{きょうじん}靱化と災害復旧等の推進—の五つが柱として据えられた。

①新基本法計画推進集中対策には、食料安全保障の強化に向けた構造転換対策として、「食料システムの確立」「不測時に備えた食料供給体制強化対策」。生産資材の国内代替転換等に関しては「みどりの食料システム戦略緊急対策」「国内肥料資源の

利用拡大対策」「国産飼料生産・利用拡大緊急対策」。生産者の急減に備えた生産基盤の構造転換対策に関しては「次世代の担い手の確保・育成」。省力化に対応した基盤の整備・保全に関しては、中山間地域等の振興として「鳥獣被害防止対策とジビエ利活用の推進」などが盛り込まれた。

②物価高騰等の影響緩和対策には、物価高騰に伴い需要が低迷している状況を踏まえ、食肉事業者が行う和牛肉の販売促進などを支援する「和牛肉需要拡大緊急対策」等が盛り込まれた。

③「総合的なTPP等関連政策大綱」に基づく施策の実施には、輸出5兆円目標の実現に向けた「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」の実施策として「輸出促進に向けた環境整備」「海外での輸出支援体制の確立」。国際競争力のある産地イノベーションの促進として、安定的な食肉供給基盤の確保や広域の生乳需給調整機能の強化などのための食肉処理施設や乳製品加工施設の再編・高度化等を支援する「食肉等流通構造高度化・輸出拡大事業」ほか。畜産・酪農収益力強化総合プロジェクトの推進として「畜産クラスター等による生産基盤の維持・強化」などが盛り込まれた。

④持続可能な成長に向けた農林水産施策の推進には、畜産・酪農経営の安定や家畜伝染病、病害虫などへの対応強化として、「家畜伝染病・家畜衛生対策」「重要病害虫の侵入・まん延防止」等が盛り込まれた。

⑤防災・減災、国土強靱化と災害復旧等の推進には、防災・減災、国土強靱化の推進として、「農業水利施設、ため池等の対策」など、そして、令和6年能登半島地震、6年9月の豪雨などによる災害被害の復旧・復興として「農業機械・施設等の再建、営農再開に向けた支援」などが盛り込まれた。

その後、7年度税制改正農林部会重点要望事項案についても説明され、各県から参加した自民党員による活発な意見交換が行われ、閉会となった。

鳥フル防疫対策緊急全国会議開催 関係者と危機感共有一農水省

農水省は21日、令和6年度鳥インフルエンザ防疫対策緊急全国会議を開催した。今シーズンのわが国での高病原性鳥インフルエンザの発生においては、84事例1771万羽の殺処分、過去最多の発生事例となった4年度シーズンに匹敵するペースである。同会議は、都道府県や生産者団体と危機感の共有や対策の強化をしていくことを目的とするもの。冒頭、江藤拓農水大臣があいさつを行ったあと、事務方が発生状況や今後の対策について説明を行った。

今シーズンの発生については、現在8道県11事例が確認されている。過去シーズンと比較すると、最も早かった年が野鳥では4年度シーズンの9月25日。今シーズンはそれに次ぐ速さで、9月30日に確認されており、さらに、家禽では4年度を10日以上上回るペースとなった。

今後の対策として①飼養衛生管理の隙を埋める対策②再発の対策③大規模農場の対策④発生時の速やかな防疫措置の一の四つを示し、次のとおり説明した。

【飼養衛生管理の隙を埋める対策】

飼養衛生管理の基本は、農場に病原菌を持ち込まないことで、農場の「隙」を埋める取り組みが重要である。そのため、野鳥、野生動物の侵入・誘引防止などの従来の対策に加え、今シーズンの発生事例を踏まえた対策強化も必要である。

今シーズンでは、農場への外部入場者が靴の履き替えなどの飼養衛生管理が不十分であった事例や、乾燥し塵埃が舞いやすい環境下において換気をした後に入気口周辺に死亡鶏が分布していた事例がみられた。農場外の関係者を含めた飼養衛生管理の徹底(不要不急の工事の延期など)や、鶏舎への塵埃侵入防止対策(乾燥した環境下における散水・消毒等)も、農場の「隙」を埋める対策として重要と考えられる。

【再発対策】

今シーズン発生10事例のうち6事例が、過去に発生した農場または地域における再発であることから、

「一度発生した地域では再発リスクが高い」という認識を徹底し、とくに農場密集地域での注意喚起が再度必要である。

【大規模農場対策】

動物衛生課において、飼養羽数20万羽以上の農場における衛生対策の実施状況について調査したところ、鶏舎開口部対策などは実施率が比較的高いが、入気口フィルターやため池対策、鶏舎屋根へのテグス設置などは実施率が低く、点検項目によって実施率にバラツキがみられる結果となった。

このため、20万羽以上の農場は、仮に発生した場合に鶏卵需給や防疫対応上の影響が生じ得ることから、今一度、飼養衛生管理の順守徹底状況や、当日説明した対策強化ポイントの実施状況などについて、再点検を呼びかけた。

また、分割管理の導入に向けた検討は都道府県により偏りがある状況だが、先行事例(従業員は分けられないがシャワーインによる対応事例、ソフト対策のみで検討している事例など)も紹介し、再度大規模農場における分割管理の導入可能性について示唆している。また、都道府県からは分割管理の考え方をもとに、殺処分羽数の低減につながる簡易な取り組みの相談もあるとし、分割管理まで至らずとも、疫学関連農場とならないための管理に向けて、衛生管理状況などを確認することが必要であることを示した。

【発生時の速やかな疫学措置】

迅速な防疫措置(殺処分・埋却など)を実施するためには、初動対応が最重要である。

このため、初動の約12時間に行うべき、「検査の迅速かつ確実な実施」「防疫措置開始に向けた諸準備」「農林水産省はじめ関係機関との適時適切な情報共有」の3点について、改めて体制を再点検するよう求めている。

迅速な防疫措置(殺処分・埋却など)の実施の際は、十分な資機材・作業員の確保が不可欠。年末年始の長期休暇も見据え、緊急の調達が困難になる可能性も考慮し、事前の備えを徹底するよう求めた。

日飼工が「配合飼料価格安定制度のあり方検討会」踏まえ説明会を実施

日本飼料工業会は19日、「配合飼料価格安定制度の改革をめぐる情勢」について、説明会を実施。農水省で行われた「配合飼料価格安定制度のあり方検討会」を踏まえ、日本飼料工業会や一般社団法人全日本配合飼料価格畜産安定基金(全日基)から検討会での議論について状況説明を行った。

配合飼料価格安定制度については、配合飼料価格の急激な上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和することを目的とした制度で、民間と国の負担により生産者に補填金を交付し、その機能を果たしてきたが、令和3年から輸入原料価格の高騰に伴い、価格の急激な上昇が長期間にわたったため、巨額の財源負担が生じ、制度の持続が懸念される事態に至っている。農水省では、この状況を踏まえ、基金関係団体が参画する「配合飼料価格安定制度のあり方検討会」を設置し、議論を開始。今年10月に中間的総括を示している。

この取りまとめに対し、全日基は「あり方検討会」

の主宰である農水省が、基金団体等関係者による議論の途中で、中間的総括という形で独自の報告書を打ち出したことについて、理解に苦しむ」と、難色を示している。

また、農水省が示した異常補填の方向性について、「これまでの共積みによる財源積立方式から異常補填発動時の補填額折半方式に変更することの運用改善案を示しているが、新たな方式の具体的な中身についてもいまのところ何ら示されていない」とし、「令和7年度の基本契約の締結に向け、基金団体は契約者に対する説明責任を果たす責務を負っている。農水省には関係者の相互理解の醸成を基本に据えつつ、あるべき制度の構築に向けた真摯な検討と取りまとめに尽力いただきたい」と要請した。

全日基は今後、基金としての考え方を知ってもらう機会、また情報共有の場として、ワークショップを複数回に分けて開催していく予定だ。

SRS ホールディングス 25 年度中間決算、増収増益を達成、M&A も積極的推進

関西圏を中心に「和食さと」などを展開するSRSホールディングス(株)(重里政彦社長)は、このほど2025年3月期第2四半期決算を発表。売上高は314億8100万円(前年同期比7・8%増)、営業利益15億9700万円(64・7%増)、経常利益15億1200万円(56・3%増)、中間純利益9億4400万円(32・2%増)の増収増益の結果となった。

8月の南海トラフ地震臨時情報や8月末から9月初旬の台風10号などのマイナス要因はあったものの、インバウンド需要の増加、賃上げトレンドなど外食産業における消費者の購買活動が堅調に推移したことなどから、既存店の収益性が向上、前年実績を上回った。主力の和食さと業態では7店舗で大型リニューアルを実施したほか、掃除ロボットの導入を73店舗に拡大し、収益性の向上と業務効率化を推進した。また、グランドメニューの改定を4月に実施したことなども奏功し、同業態の売り上げは前年同期比106・7%

で推移した。また、トンカツ業態の「かつや」はコロナ禍前と比較して大きく伸長。揚げ物のテイクアウト・デリバリー需要の高まりもあり、好調に推移している。

今期の同社は事業提携を結んだ、外食事業のコンサルティング実績を有するアドバンテッジアドバイザーズ(株)とも連携しながら、すし業態「うまい鮎勘」31店舗、海外2店舗を展開する(株)アミノを子会社化したほか、中期経営計画の重点テーマである「中食需要の取り込み」を企図し、関西地域でピフテキ重業態「ピフテキ 牛ノ福」9店舗を展開する(株)シंगाを子会社化し傘下に収めるなど積極的に業容を拡大している。

通期の業績予想は期初計画と変わらず、売上高640億円(前期比6・3%増)、営業利益24億円(11・3%増)、経常利益23億円(6・4%増)、純利益15億円(16・5%減)を見込む。

牛・豚肉の輸入予測数量、12月牛肉は2・5%増、豚肉は15・6%増か

農畜産業振興機構は20日、国内の主な輸入事業者で構成される牛肉および豚肉輸入動向検討委員会を開催し、9～12月の牛肉と豚肉の輸入数量を予測した。

それによると牛肉輸入量は、11月の冷蔵品が1万5千t(3・9%増)、冷凍品が2万2600t(19・3%増)で合計3万7600t(12・5%増)と予測。12月は冷蔵品が1万4800t(1・4%減)、冷凍品が2万2200t(5・4%増)で合計3万7千t(2.5%増)と予測。10

～12月の3カ月平均は3万9600tと前年同期を8・2%上回ると予測している。

豚肉輸入量は11月の冷蔵品が2万8300t(20・7%減)、冷凍品が4万7900t(22・4%増)で合計7万6200t(1.9%増)と予測。12月の冷蔵品が3万1600t(2.4%増)、冷凍品が4万6600t(26・6%増)で合計7万8200t(15・6%増)と予測。3カ月平均は7万9800tと前年同期を12・6%上回ると予測している。

和牛マスターセンターで姫路共進会開催、名誉賞はうしの中山出品牛

第15回姫路市地方卸売市場枝肉共進会がこのほど、和牛マスター食肉センター(姫路市食肉地方卸売市場)で開催された。同センターで夏と秋に開催される最大規模の共進会で、今回、黒毛和種147頭(雌44頭、去勢103頭)、交雑種22頭(11頭、11頭)の計169頭が出品された。このうち名誉賞には鹿児島県の(有)うしの中山(益田泰伸市場流通部長＝上写真)出品牛を選出。キロ当たり5千円でエスフーズ(株)が落札した。

開催にあたり運営会社の和牛マスター(株)池田政隆社長(下写真)が関係者に謝辞を述べ「開設以来、8年目を迎えている。当共進会も15回目を迎える。当センターは3分の1が輸出向けだが、国内向けにも良い市場作りを進めている」と強調した。

うしの中山出品の名誉賞牛は、29カ月齢の去勢牛で枝肉重量646kg。格付A5等級のBMS No.12。血統は父「若百合」、母の父「美国桜」。うしの中山の坂本晃汰場長は「出荷時は前肩に張りがあり、お尻までしっかり割れてボリューム感があった。枝肉はロース芯が非常にきれいで大きく、モモに張りがあり、歩留まりが良かった。このような共進会での受賞を大変うれしく思う。日頃から良い素牛生産をしてくださる地域の繁殖農家さんや関係各社のお力添えあつての結果。これを励みにより一層、日々の飼養管理に精進したい」と喜びの声を語った。そのほかの入賞牛の出品者は次のとおり。



最優秀賞 日高見牧場(宮城県、4002円、購買者＝エスフーズ)、佐賀牛宮崎牧場(佐賀県、3805円、同)▽優秀賞 夏目牧場(静岡県、3500円、エスフーズ名古屋)、谷口ファーム(北海道、3504円、エスフーズ)

【鶏肉輸入数量予測】12月は計5万2580tで3・1%増

日本食肉輸出入協会は20日、鶏肉輸入動向検討委員会を東京都内で開催し、10～12月の鶏肉輸入数量を予測した。それによると、10月は計6万3020t(31・8%増)で、ブラジルが4万6千t(54・5%増)、タイが1万6千t(3・0%減)、米国が1千t(33・5%減)、その他の国が20t(5・3%増)。11月は計5万1050t(30・3%増)で、ブラジルが3万7千t(61・3%増)、タイが1万3100t(12・4%減)、米国が900t(27・1%減)、その他の国が50t(5・7%減)。12月は計5万2580t(3・1%増)で、ブラジルが3万9千t(15・5%増)、タイが1万2900t(19・6%減)、米国が670t(42・2%減)、その他

の国が10t(5倍増)と予測している。

鶏肉の輸入動向については、冬場における需要期に入り、外食や中食などを含めた鶏肉需要の増大に加え、消費者の節約志向を背景とした鶏肉需要の高まりも後押ししつつ、堅調に推移するものと予測している。ただし、他畜種^{ひつぱく}などの商材を含めた在庫の積み増しおよび庫腹の逼迫、不透明な為替動向、国内外における高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生动向、気候変動に伴う災害などの影響要因についても引き続き注視していく必要があるとしている。

日本養豚大学の初級コース第9期がスタート、開講式実施

一般社団法人日本養豚協会(JPPA)が主催する日本養豚大学は20日、神奈川県相模原市の麻布大学の産業動物臨床教育センターで初級コース第9期の開講式を行い、講義や実習をスタートした。JPPA名誉顧問でもある日本養豚大学の志澤勝校長(上写真)は冒頭、「日本養豚の後継者が学べる場を作りたいという思いからこの大学が始まり、10年近くが経とうとしている。現在およそ3200戸の養豚農家がある中で、この卒業生たちも会社や地域で実力を発揮している。日本では食料自給率が39%しかないが、豚肉は50%を維持していることを誇りに思う」とあいさつ。続けて、「仲間を作り、新しい知識を持ち帰り、所属する会社や地域の養豚が発展するよう、願っている」と学生らを激励した。

来賓としては農水省畜産局畜産技術室の和田剛室長、麻布大学の川上泰学長があいさつするとともに、出席者には応援の言葉を贈った。

カリキュラムのうちオープン講座では、志澤校長が「養豚産業の社会的役割と責任」をテーマに、養豚に関わる過去の出来事と現在に至るまでの変遷、社会状況の影響などをみながら、豚肉の需給動向や消費量の推移を解説。次に、日高良一副校長は「養豚の哲学(若者に伝えたいこと)」と題し、養豚の歴史を振り返り、日本養豚の環境や課題に触れつつ、優



れた生産性の実現に向けた考え方を説いた。最後に、稲吉弘之運営委員長による「養豚経営の基本 ー良い豚・良い餌・良い管理ー」の講義では、豚の遺伝能力や飼料要求率、管理体制を軸に、日本養豚の変化、今後の養豚業継続に向けて重要な点などを説明した。

東京市場が牛内臓価格 3 円引き上げ、12 月 2 日販売分から

東京食肉市場は12月2日販売分から牛内臓価格を3円引き上げる。11月20日に東京都中央卸売市場食肉市場副生物協議会を開催し、決定した。

大動物内臓価格を、枝肉重量1kg当たり和牛・交雑は48円(旧価格45円)、乳牛は45円(42円)とし、枝肉重量510kg以上の場合は、和牛・交雑は1頭当たり2万4480円、乳牛は2万2950円(消費税別)とする。内臓廃棄についても次のとおり増額する。

和牛・交雑 レバー全廃棄5300円(旧価格5千円)、レバー3分の2～3分の3未満廃棄3500円(3300円)、レバー3分の1～3分の2未満廃棄1700円(1600円)▷胃520円(500円)▷大腸3200円(3千円)▷小腸1600円(1500円)▷ハラミ全廃棄

9900円(9300円)、ハラミ2分の1～2分の2未満廃棄7400円(7千円)▷タン1280円(1200円)▷ハツ800円(700円)▽頭700円(650円)▷テール220円(200円)

乳牛 レバー全廃棄4500円(4100円)、レバー3分の2～3分の3未満廃棄2750円(2500円)、レバー3分の1～3分の2未満廃棄1400円(1300円)▷胃520円(500円)▷大腸3200円(3千円)▷小腸1600円(1500円)▷ハラミ全廃棄9500円(9千円)、ハラミ2分の1～2分の2未満廃棄7千円(6700円)▷タン1200円(1100円)▷ハツ670円(600円)▷頭640円(580円)▷テール220円(200円)

フレッシュネスバーガー、5代目「神戸牛バーガー」を発売

コロナイドグループの(株)フレッシュネス(横浜市、斎藤健太朗社長)が展開するハンバーガーチェーン「フレッシュネスバーガー」は20日、ブランド和牛バーガーシリーズから、5代目となる「神戸牛バーガー」(税込み950円=写真右)「神戸牛チーズバーガー」(1050円=写真左)を12月4日～2月4日に全国店舗で期間限定発売することを発表。それに先立ち、メディア向け新商品試食会を行った。

同社では“世界のグルメを大人の本格バーガーに”を年間テーマに、季節ごとに期間限定バーガーを展開。今回は「日本」をテーマに和の食材を使った新作ハンバーガー2種とポテト、ドリンクを紹介した。

冒頭、同社のマーケティング本部商品部の逆井里奈商品開発部長が「発売に際し約20万食分を用意するが、販売予定期間を前に完売する年があるほど、多くの反響をいただいている本シリーズ商品。毎年さらなるおいしさを追求し続け、5代目となった。日本3大ビーフとして知られる神戸牛の赤身肉を使ったパティは、まず購入していただきやすい価格帯を念頭に置き、ミルクィで甘い雌牛の乳房『チチカブ』と、肉の香りを楽しめジューシーで香り高い、腎臓の周り『ケンネ』の2部位の脂を合わせ、ふんわりとした厚みと軟らかくジューシーな食感を追求した。ソースは



フランス料理のマデラソースをイメージし、さっぱりとした程よい酸味と、しょうゆのコクが効いた自家製和風バルサミコソースに仕上げた。バンズにはわさびを塗り、大葉を挟みアクセントにし、大人の味わいにまとめあげた。今年一年頑張った自分へのご褒美となるような、当社渾身のぜいたくバーガーとなっている」と同商品の魅力を語った。

また、新作として梅の酸味とマヨネーズのコクが相性抜群の「紀州南高梅マヨディップポテト」(390円)。そしてドリンクでは熊本県産のかんきつ「不知火(しらぬい)」の果肉とシロップを使った「不知火クラフトレモネードソーダ(ICE)」「不知火クラフトレモネード(HOT)」(共に520円)が新登場した。

同会ではこれら商品の試食が行われたほか、店頭で常備してある世界各地のスパイスやソースを使った同社ハンバーガーの味変の楽しみ方も紹介された。

【輸入牛現物相場】 チャックアイロール、ロイン系などに引き合い

豪州産チルドでは入船遅れが発生しており、スソ物を中心に川中業者から引き合いが強まっている。気温が下がり、秋から冬に季節が変わり始めていることから、ロインなど高価格帯のアイテムも一定の引き合いが出ている。逼迫感のあるアイテムは限定的だが、これまで米国産の代替品として注目されてきただけに、需要が上向いたときに供給が追いつかないことも懸念される。米国産ではチャックアイロールに引き合いがある。相場は高止まりしているが市中在庫も少ないため、今後一定の上昇も考えられる。

フローズンは豪州産ではカウミート中心の取引で、特に関西から中四国で引き合いが強く、市中在庫が逼迫。関東から荷を手当てするケースも多い。ポイント、ナーベルが季節商材として動く時期ではあるが、為替の影響などによる高値相場により、動きは鈍い。

	チルド	フローズン
米		
スクウェアカットチャック	—	—
ショルダークロッド	1,700 ~ 1,800	1,500 ~ 1,600
ショートプレート	1,250 ~ 1,350	1,250 ~ 1,350
ボンレスショートリブ(チョイス)	5,850 ~ 6,300	—
ボンインショートリブ	—	—
国		
チャックリブ(チョイス)	3,450 ~ 3,510	—
ストリップロイン(チョイス)	4,000 ~ 4,500	—
リブアイロール(リップオン)	4,700 ~ 4,800	—
産		
テンダーロイン	5,000 ~ 6,500	—
ステーキレディ	—	—
チャックアイロール(チョイス)	2,100 ~ 2,200	1,700 ~ 1,800
同(プライム)	2,350 ~ 2,400	1,900 ~ 2,300

米国産は全体的に動いておらず、チルドで逼迫感のあるチャックアイロールも規格違いから代替需要は高まっていないようだ。

12月は来春に向けた価格交渉なども進められている。現地生産環境はここ数カ月で大きな変化がないものの、為替の影響が依然として不透明であること、通関遅延の影響が長引きそうであることから、各種アイテムは現在の相場からさらに上昇していくものと考えられる。

【輸入牛肉現物相場】		円/キロ	
		グラス	ショートグレイン
豪州産	トップサイド	1,250 ~ 1,300	1,350 ~ 1,400
	シックフランク	1,200 ~ 1,300	1,350 ~ 1,500
	アウトサイド	1,200 ~ 1,300	1,350 ~ 1,400
	ポイント	1,200 ~ 1,300	1,300 ~ 1,400
	ナーベル	1,200 ~ 1,300	1,280 ~ 1,400
	ランプ	1,500 ~ 1,600	1,640 ~ 1,800
	クロッド	1,250 ~ 1,300	1,300 ~ 1,450
	チャックロール	1,400 ~ 1,500	1,550 ~ 1,700
	チャックテンダー	1,200 ~ 1,300	1,350 ~ 1,500
	キューブロール	2,600 ~ 2,800	3,800 ~ 4,000
C	ストリップロイン	1,850 ~ 2,000	2,100 ~ 2,600
	テンダーロイン	4,100 ~ 4,200	4,300 ~ 5,200
豪州産	チャック&ブレード	—	—
	ポイント	1,150 ~ 1,250	—
	ナーベル	1,200 ~ 1,250	—
	カウミート	1,050 ~ 1,200	—
F	トップサイド	1,200 ~ 1,350	—
	シックフランク	—	—

【ブロイラー市中現物相場】 国産モモ、生鮮、冷凍物とも一段高

◇国産物 全国的に12月並みの寒波に見舞われ、鍋物用途で生鮮モモの需要は高まり、ジリ高で推移。日経加重平均で700円前後となった。生鮮ムネも395円台前後でやや堅調。冷凍モモは品薄に加え、鳥フルのリスク回避からの引き

合いもあり値を上げた。

◇輸入物 「ブラジル産地でやや荷余り感がある」との声もきかれる。日本国内では10月、11月の輸

入量が前年を大幅に上回ったことから、需要期の年末年始に向けても物量的な逼迫感はなく、ブラジル産、タイ産とも弱もちあいでの推移が予想される。

ブロイラー現物相場

国産冷凍物	
モモ正肉(産地凍結)	650~670
ムネ正肉(〃)	380~420
手羽モト(〃)	350~390
手羽サキ(〃)	玉なし
砂キモ(〃)	玉なし
ササミ(〃)	400~430

単位: 円/キロ

輸入物	
米国産モモ正肉(240gUP)	460中心
米国産ジャンボレッグ(350gUP)	350中心
米国産B I L	430~450
ブラジル産モモ正肉	360~380
ブラジル産モモ角切り	450~460
ブラジル産皮なしモモ正肉	470中心
ブラジル産グリラー(1000gUP)	440中心
ブラジル産手羽サキ(50gUP)	600中心
タイ産モモ正肉	430中心
タイ産モモ角切り(25~30g)	490中心
米国産モモ串	玉なし

[資料] 日本食肉流通センター週間市況 〈和牛・交雑牛・乳牛チルド〉

(令和6年11月10日～11月16日)

(単位:キログラム当たり円、税込み、重量kg)

		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量
		和牛チルド「4等級」	首都圏	カタロース	3,722	4,081		4,777	4,169	3,727	3,456	3,839
カタ	3,380			3,553	3,838	3,553	8,376	3,345	3,432	3,780	3,467	7,294
カタバラ	2,160			2,242	3,034	2,395	3,103	2,174	2,203	2,297	2,208	1,570
マエセット	-			-	-	-	386	-	-	-	-	-
ヒレ	8,640			9,180	10,800	9,405	1,700	8,640	9,504	9,984	9,489	1,912
ロイン	5,184			6,264	7,482	6,160	2,569	5,076	5,400	5,928	5,490	3,518
ロインセット	5,625			5,707	6,372	5,807	1,980	-	-	-	-	143
トモバラ	1,836			2,058	2,643	2,170	10,962	1,436	1,890	3,056	2,161	11,627
ウチモモ	3,954			4,158	4,600	4,240	1,759	3,240	3,729	4,104	3,788	2,277
シントアマ	3,780			3,887	4,320	3,952	2,962	2,916	3,887	4,104	3,862	1,808
ランイチ	3,905			4,135	4,428	4,122	2,256	3,672	3,795	4,104	3,897	2,265
ソトモモ	3,317			3,522	3,864	3,501	2,435	2,916	3,451	3,669	3,391	1,580
スネ	1,890			1,955	2,155	1,954	5,223	1,986	2,062	2,160	2,063	3,127
モモセット	3,883			3,965	4,050	3,964	13,395	3,376	3,618	3,834	3,574	10,177
セット	3,421	3,564	4,485	3,728	23,015	3,348	3,543	4,287	3,637	13,936		
重量合計					83,848					62,326		
和牛チルド「4等級」	中京圏	カタロース	-	-	-	-	857	3,564	3,726	3,888	3,780	1,354
		カタ	3,240	3,402	3,672	3,495	1,241	-	-	-	-	990
		カタバラ	2,592	2,657	2,955	2,725	1,637	-	-	-	-	401
		ヒレ	-	-	-	-	446	-	-	-	-	329
		ロイン	-	-	-	-	566	-	-	-	-	404
		トモバラ	1,512	1,566	1,836	1,633	2,543	1,760	2,376	3,650	2,617	1,263
		ウチモモ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	244
		シントアマ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	434
		ランイチ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	407
		ソトモモ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	356
		スネ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	601
		モモセット	-	-	-	-	931	-	-	-	-	-
		セット	3,488	3,596	3,596	3,560	6,488	3,510	3,636	3,888	3,697	3,560
		重量合計					14,709					10,343

(令和6年11月10日～11月16日)

		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量
		交雑牛チルド「3等級」	首都圏	カタロース	2,795	3,232		3,564	3,141	8,812	2,808	3,002
カタ	2,376			2,628	2,935	2,700	5,834	2,328	2,484	2,592	2,449	9,655
カタバラ	1,490			2,240	2,808	2,231	2,460	1,471	1,563	1,612	1,562	3,265
ヒレ	5,606			5,940	6,480	6,003	3,286	6,171	6,588	6,807	6,548	3,346
ロイン	4,102			4,237	4,428	4,283	2,368	3,946	4,396	4,430	4,345	6,212
トモバラ	1,512			2,344	2,862	2,217	11,016	1,512	1,566	2,002	1,646	10,593
ウチモモ	2,376			2,430	2,507	2,444	3,182	2,376	2,484	2,592	2,467	4,610
シントアマ	2,376			2,498	2,862	2,566	3,640	2,430	2,592	2,745	2,594	5,119
ランイチ	2,441			2,592	2,862	2,609	2,946	2,433	2,538	2,646	2,532	5,294
ソトモモ	2,052			2,076	2,182	2,085	1,990	2,160	2,268	2,425	2,296	6,132
スネ	1,458			1,512	1,620	1,526	3,339	1,480	1,594	1,630	1,566	6,835
モモセット	-			-	-	-	-	2,419	2,534	2,784	2,566	5,802
セット	2,681			2,695	3,215	2,852	19,305	2,556	3,078	3,186	3,024	38,695
重量合計							68,178					119,111

		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量
		乳牛チルド「3等級」	首都圏	カタロース	2,739	3,024		3,461	3,042	4,341	2,338	2,397
カタ	-			-	-	-	651	1,582	1,728	1,865	1,733	6,526
カタバラ	-			-	-	-	75	-	-	-	-	-
三角バラ	-			-	-	-	-	2,376	2,624	3,456	2,758	1,152
ブリスケット	-			-	-	-	-	1,150	1,242	1,404	1,224	5,134
ヒレ	4,947			5,147	5,454	5,181	2,362	4,701	4,860	5,670	5,005	2,671
ロイン	3,055			3,294	3,456	3,261	1,650	2,906	3,078	3,435	3,101	6,249
トモバラ	1,242			2,697	2,836	2,202	5,020	1,171	1,493	2,970	1,618	7,155
ウチモモ	1,944			2,093	2,267	2,094	3,254	1,890	1,922	2,052	1,935	9,477
シントアマ	1,944			2,055	2,160	2,070	2,062	1,728	1,728	1,944	1,778	2,996
ランイチ	1,836			2,070	2,174	2,060	1,850	1,674	1,836	1,944	1,845	4,486
ソトモモ	1,836			1,836	1,890	1,838	1,041	1,836	1,836	1,998	1,879	2,235
スネ	1,480			1,512	1,512	1,508	2,237	1,404	1,458	1,581	1,467	7,021
モモセット	2,398			2,398	2,417	2,404	33,237	1,769	1,967	1,979	1,890	43,571
重量合計				合計	57,780				合計	107,569		

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 11月21日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体			5	4	3	2	1
和牛	雌 A	高値	3,817	2,519	2,191	-	-
		安値	2,294	2,331	1,955	-	-
		平均	2,709	2,403	2,083	-	-
	89頭	頭数	61	22	6	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	1,777	-
		平均	-	-	-	1,777	-
	1頭	頭数	-	-	-	1	-
	去 A	高値	3,458	2,553	2,283	-	-
		安値	2,285	2,269	2,090	-	-
平均		2,743	2,417	2,215	-	-	
220頭	頭数	154	54	12	-	-	
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
-頭	頭数	-	-	-	-	-	
乳牛	雌 B	-頭	平均	-	-	-	-
	雌 C	-頭	平均	-	-	-	-
	去 B	2頭	平均	-	-	1,149	-
	去 C	4頭	平均	-	-	1,168	-
交雑牛	雌 B	8頭	平均	-	1,574	1,384	-
		頭数	-	-	2	6	-
	雌 C	-頭	頭数	-	-	-	-
		去 B	13頭	平均	-	1,780	1,577
頭数	-	4	4	5	-		
去 C	4頭	平均	-	-	1,430	1,425	-
	頭数	-	-	1	3	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚	その他
と畜 売買	430	1,091	-	(競り) (相対)	
	428	1,080	256.0	-	3 81

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,296	2,203	1,444	1,344	-
	B	-	-	1,347	1,183	564
和 去	A	2,450	2,319	2,115	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	809	-
	C	-	-	-	977	789
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,714	1,500	1,367	-
	C	-	-	-	1,350	-
交 去	B	1,824	1,688	1,569	1,439	-
	C	-	1,620	1,444	1,390	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	728	685	578	543	540
	安値	562	540	504	475	411
	平均	594	549	540	532	495
	頭数	(9)	(431)	(354)	(140)	(146)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
搬入 相対	高値	-	-	-	-	524
	安値	-	-	-	-	502
	平均	-	-	-	-	517
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(3)

[大阪食肉卸売市場] 11月21日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,809	2,283	2,020	-	-
(頭数)	(10)	(8)	(3)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(2)	(4)	(-)
和 去 A	2,851	2,272	2,058	-	-
(頭数)	(30)	(9)	(4)	(-)	(-)
B	-	2,129	1,976	-	-
(頭数)	(-)	(1)	(1)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	2,015	1,797	1,617	1,484	-
C	-	-	1,513	1,472	-
交雑去 B	1,982	1,780	1,620	1,462	-
C	-	-	-	-	-
豚	-	663	616	449	475

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	11月21日	11月20日	(11月累計)
豚	69,200	68,700	965,100
成牛計	4,560	5,280	69,830
和牛雌	1,150	1,280	17,740
和牛去勢	1,250	1,410	18,680
乳牛雌	890	910	10,630
乳牛去勢	500	610	7,310
交雑雌	380	470	7,290
交雑去	380	600	8,030

[去勢牛B3・2規格 枝肉取引価格] 11月21日

東京	1,487円	(前日 1,494円)
大阪	1,545円	(前日 1,595円)

[豚・全農建値] 11月21日

上	中	取引頭数	市況
555円	541円	1213頭	弱もちあい

と畜 売買	牛 78頭	豚 124頭	牛概況	もちあい
	牛 122頭	豚 111頭	豚概況	反発

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 11月21日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	583 (583)	- (-)	6,062	-	もちあい
仙台 [中]	567 (578)	518 (514)	400	54	反落
宇都宮 [地]	539 (552)	530 (530)	1,538	74	続落
茨城 [地]	563 (567)	547 (544)	1,180	838	弱もちあい
群馬 [地]	553 (552)	468 (485)	2,499	398	堅調
さいたま [中]	553 (551)	542 (539)	281	284	もちあい
東京 [中]	549 (556)	540 (543)	1,091	1,080	小幅安
横浜 [中]	563 (567)	542 (542)	650	650	反落
山梨 [地]	545 (601)	564 (529)	130	104	まちまち
浜松 [地]	562 (551)	488 (490)	290	32	上伸
名古屋 [中]	592 (594)	574 (555)	968	289	弱もちあい
京都 [中]	575 (-)	556 (-)	40	125	もちあい
大阪 [中]	663 (615)	616 (559)	124	65	反発
神戸 [中]	559 (-)	559 (-)	49	145	-
岡山 [地]	672 (683)	674 (624)	338	285	下押し
広島 [中]	- (588)	- (545)	254	2	-
福岡 [中]	568 (566)	527 (528)	508	121	もちあい

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 11月14日～11月20日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,792,425 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,132	1,189	1,260	1,194	92,891
うで	702	783	822	777	152,703
ロース	1,026	1,152	1,218	1,139	161,071
ばら	1,177	1,286	1,359	1,283	197,523
もも	745	789	815	784	210,083
ヒレ	1,080	1,271	1,372	1,213	12,370
セット	924	1,017	1,056	1,009	965,784

◇近畿圏 総重量 748,477 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,166	1,280	1,333	1,266	64,345
うで	713	757	810	759	120,004
ロース	1,058	1,207	1,254	1,176	102,858
ばら	1,253	1,275	1,318	1,275	138,155
もも	705	744	788	739	157,151
ヒレ	1,041	1,210	1,291	1,185	9,409
セット	890	982	1,054	981	156,555

[食鳥正肉日経相場] 11月20日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (7社) ※休載

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	-	-	-	-
ムネ	-	-	-	-

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	655	719	990	10
ムネ	365	417	550	5

[農水省統計情報部食鳥市況] 11月19日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	952	610	550	600	650
安値	668	371	290	360	350
平均	715	409	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間中(1週間分)に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ(単価・重量)を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値(加重平均値)。

食肉に関する**最新**のニュースを、どこよりも**早く**お届け!

日刊食肉速報

2024年11月、リニューアル!

A4版にリニューアルして更に見やすくなりました。

また、紙媒体だけでなく、新設されたWEBページでいつでも手軽に情報チェックが可能に。

食肉関連の行政、業界の動向をはじめ、国産と輸入の相場市況、企業情報など、これからは鮮度の高い日々の業界ニュースをお届けいたします。

紙媒体

A4版に
サイズUP!



購読料は
そのまま!



**WEB
サービス版**

手軽に情報チェック!
バックナンバーも
探しやすい!



仕様 | 11ページ
(表紙)カラー (中面)モノクロ
発行 | 月曜から金曜(祝祭日を除く)
購読料 | 1カ年 82,080円(税・送料込)
6カ月 42,120円(税・送料込)

*写真はイメージです。

広告スポンサー募集

日刊だからこそ、効率的なタイミングでPR!

業界紙として70年の歴史をもつ信頼性の高い本紙にて、広告を出しませんか?
広告サイズは幅広く対応可能です。ぜひ、貴社のビジネスにお役立てください。

イベント情報など
スポット告知に最適

ターゲットを絞った
訴求力の高さ

70年の歴史をもつ
信頼性の高い業界紙

● 購読・広告掲載に関するお問い合わせ ●

東京支社 ☎ 03-3663-2011 ✉ mail@shokuniku.co.jp

株式会社 食肉通信社